

印度哲学研究室紹介

1. 授業内容 学部

| 専攻 | 科目種別 | 担当教官 | 講義題目および内容 | 週時 | 単位 | 備考 | |
|------|---------|--|-----------------------------------|--------------------------------|-----|-----|-----|
| 印度哲学 | 印度哲学史演習 | 宮坂教授 | Abhidharmakośa 上級サンスクリット —a— | 2 | 4 | | |
| | | 宮坂教授 | Kathāsaritsāgara 中級サンスクリット —a— | 2 | 4 | | |
| | 印度哲学史概説 | 宮坂教授 | インド哲学史 サンスクリットの知識を必要としない。 | 2 | 4 | △ | |
| | 印度哲学史講読 | 宮坂教授 | 仏教基礎語彙概説 サンスクリットの知識を必要としない。 | 2 | 2 | (前) | |
| | 印度哲学史演習 | 印度哲学史演習 | 立川助教授 | Tarkasamgraha 中級サンスクリット —b— | 2 | 2 | (前) |
| | | | 立川助教授 | Buddhacarita 上級サンスクリット —b— | 2 | 2 | (前) |
| 宮坂教授 | | インド哲学セミナー 最初の三週間において各人がテーマを決めて、その後一人一時間の発表をする。テーマはインド哲学・仏教学に関するものとする。 | 2 | 2 | (後) | | |

| 専攻 | 科目種別 | 担当教官 | 講義題目および内容 | 週時 | 単位 | 備考 |
|------|---------|-------|---|----|----|------|
| 印度哲学 | 印度哲学史講読 | 立川助教授 | 初級チベット語 文法を終えたものを対象とする。 | 2 | 2 | (前) |
| | | 立川助教授 | トウカン宗義 中級チベット語 | 2 | 2 | (前) |
| 共通 | パリー語 | 前田講師 | パリー語学研究 パリー語は仏教の聖典用語として原始仏教時代から現代までの長い歴史をもつ。 講義では女性の仏弟子がその宗教的体験をつづった詩 Therīgāthā を読む。 | 2 | 4 | |
| | 梵語 | 菱田講師 | 梵語初歩 サンスクリット入門。一学期で簡単な物語を読むことができるようになることをめざす | 4 | 4 | (後)◎ |
| 印度哲学 | 印度哲学史講読 | 畝部講師 | 梵語仏典講読 『阿弥陀経』のサンスクリット原典を読み、できれば『無量寿経』も読んでいきたい。 | 2 | 2 | (後) |

| 専攻 | 科目種別 | 担当教官 | 講義題目および内容 | 週時 | 単位 | 備考 |
|------|---------|------|--|----|----|-------|
| 印度哲学 | 印度哲学史講読 | 高橋講師 | 『成業論』講読 『成業論』に相当する梵本 Karma-siddhiprakaraṇa はまだ発見されていないが、漢訳とチベット訳を比較検討しつつ講読を進めてゆきたい。 | 2 | 2 | (後) |
| | | 小林講師 | サンスクリット文法学 テキストは Laghusiddhantaumudī | 4 | 2 | (前・隔) |

大学院博士課程

| | | | | | | |
|---------------|----|-------|---------|---|---|-----|
| 仏教思想史 特殊研究 | 講義 | 宮坂教授 | アビダルマ研究 | 2 | 4 | |
| | 演習 | 立川助教授 | 中観思想研究 | 2 | 2 | (前) |

2. プーナ大学との交換留学制度について

この制度は、前教授故北川秀則教授と、プーナ大学サンスクリット語プラークリット語研究室教授 S. D. Joshi 教授の尽力により文部省交換留学生制度の一環として 1973 年に発足した。

毎年、プーナ大学から 2 名のものが名古屋大学に派遣され、名古屋大学から 1 名のものがプーナ大学に派遣される。プーナ大学から派遣される学生は主に自然科学の研究を目的としている。そのため現在までに当研

研究室に派遣されたものは以下の2名のみである。

1973年 Dr. Miss, Chitralkha Kher

プーナ大学サンスクリット語ブラークリット語研究室パーリ語講師，日本ではチベット語の学習に従事。インド帰国後死亡。

1978年 Shrikant Bahulkar

プーナ大学にて，Ph.D. 取得。提出論文は *Bhaiṣajyāni in the Kauśika-sūtra*。日本ではマンダラ研究及びチベット語の学習に従事。現在プーナ大学サンスクリット語研究所研究員。

名古屋大学からプーナ大学へ派遣された学生は，今までのところ全て当研究室に属する者であり，そのものは以下の通りである。

1973年 清原 勝行

ガルワレ大学教授 Mrs. Meera K. Desai のもとで，注釈に基づきつつ、『ヴェーダーンタ・サーラ』の研究に従事。その成果は修論『『ヴェーダーンタ・サーラ』に於ける大文章の解釈の方法』にまとめられ，その一部が『東海仏教二十二輯』に掲載されている。

1974年 島 岩

プーナ大学サンスクリット研究所助教授 Dr. V.G. Rahurkar, Dr. K.P. Jog, Dr. Mrs. Saroja Bhate のもとでそれぞれ『ブラフラ・スートラ・シャンカラ註』『シュリーバーシュヤ』『ラグ・シッターンタ・カウムディー』の研究に従事。その成果は修論『*Brahmasūtra śāṅkarabhāṣya* の研究』—〈*Jagadutpatti*〉に関する諸問題—にまとめられ，その一部が『印仏研』26巻2号及び『東海仏教』二十三輯に掲載されている。

1975年 日野 紹運

プーナ大学サンスクリット研究所助教授 Dr. K. P. Jog のもとでスレ

ーシュバラ研究に従事。その成果はPh. D 請求論文 "Suresvara's Vārtika on Yājñavalkya- Maitreyī Dialogue in Brhadāranyakopaniṣad 2.4 and 4.5"¹¹[Translation and Critical Study](未刊)

1976年 宮坂宥洪

プーナ大学サンスクリット研究所助教授 Dr. V. N. Jha. のもとで、新ニャーヤ学派の研究に従事中。

1977年 池田健太郎

プーナ大学サンスクリット研究所助教授 Dr. V. G. Rahurkar のもとで、『ラーマヌジャ・ギーター注』の研究に従事。その成果の一部は『東海仏教二十四輯』に掲載されている。

1978年 岩井光枝

プーナ大学サンスクリット研究所助教授 Dr. S. D. Laddu のもとで、『バイヤーカラナ・シッダーンタ・カウムディー』の研究に従事中。

1979年 和田寿弘(予定)

1979年, 8月渡印予定。

その他, 教員レベルでは, 1976年11月から翌年2月まで, プーナ大学サンスクリット語プラークリット語研究室教授, S. D. Joshi 教授が客員教授として来られた。当研究室からは, 故北川教授が, 1973年・1974年の2回に渡って約1年, 立川助教授が1975年・1977年の2回に渡って約4ヶ月, 島助手が1978年に約3ヶ月, それぞれプーナ大学を訪れ, 研究に従事した。